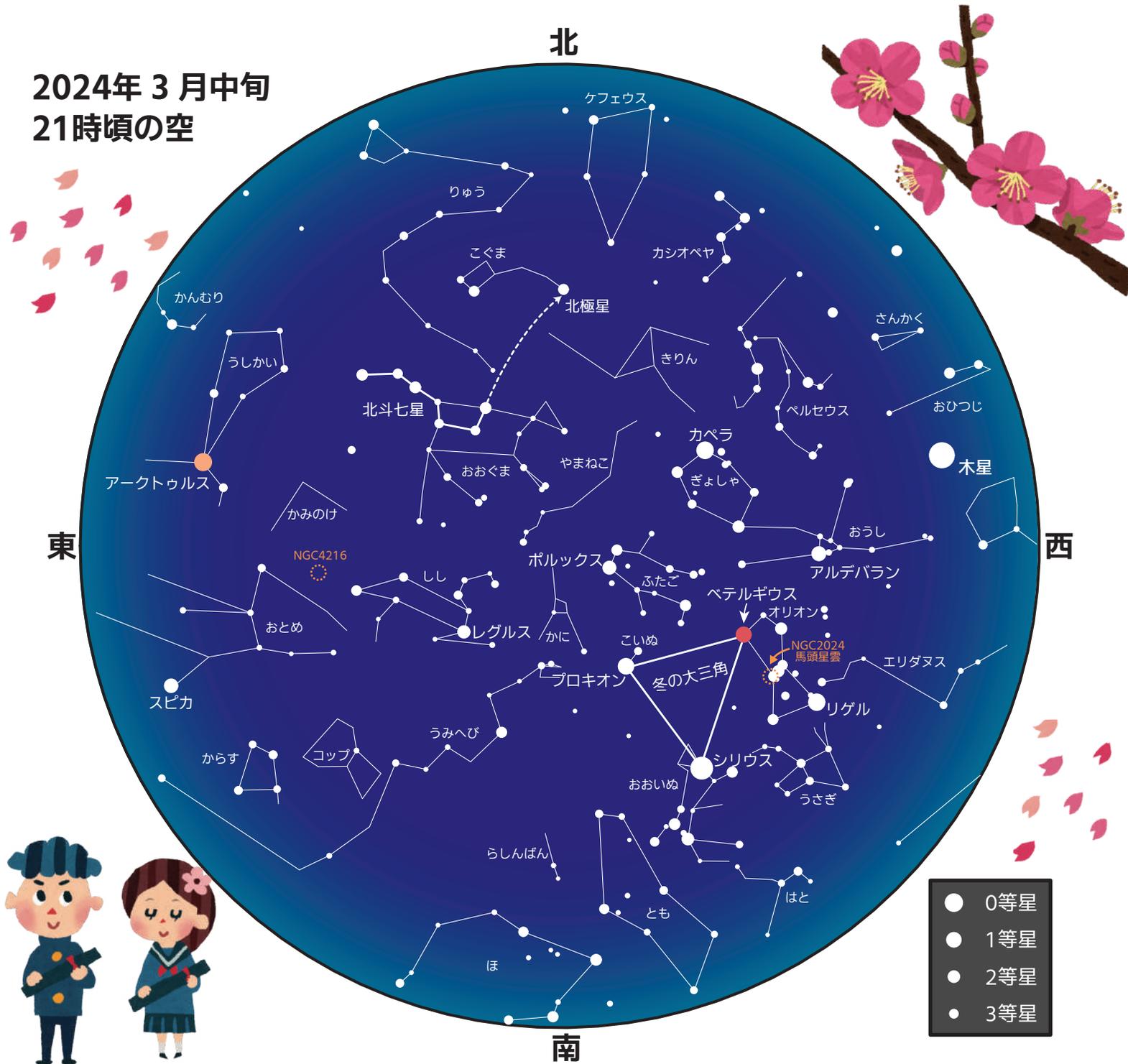


阿南市科学センター 3月の星空案内

2024年3月中旬
21時頃の空



3月というと年度末の時期ですね。夜空でも春の星との出会い、そして冬の星との別れの季節にあたります。南西の空には、星座を作る星の中で最も明るく輝く**おいぬ座のシリウス**(約-1.5等)、**オリオン座のベテルギウス**(約0.5等)、**こいぬ座のプロキオン**(約0.4等)で作る**冬の大三角**が見えています。冬の大三角は日付が進むごとに西の空に傾き、まもなくシーズンオフをむかえます。一方、頭の真上よりやや東には、はてなマークを裏返したような星並びが目印の**しし座**が見えています。他にも北東の空にはひしゃくを立てた形に7つの星が並ぶ**北斗七星**や、ほんのりオレンジ色に見える**うしかい座のアルクトゥルス**(約0.0等)など、春の星や星座たちが見ごろをむかえます。何かとせわしない時期ですが、たまにはほっと一息ついて、地上の季節の移り変わりと共に、夜空の季節の移りも楽しんでみてはいかがでしょうか。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

■ 3月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
4日



新月
10日



上弦
17日



満月
25日

3月の天体観望会で月が見える日時は？



3/16(土) 19時、20時の回で観察可



3/23(土) 19時、20時の回で観察可

※18時の回は空が明るいため、19時か20時の回がオススメです！

水星：25日に東方最大離角をむかえ、日没後、西のごく低空に見える。【約0.0等】

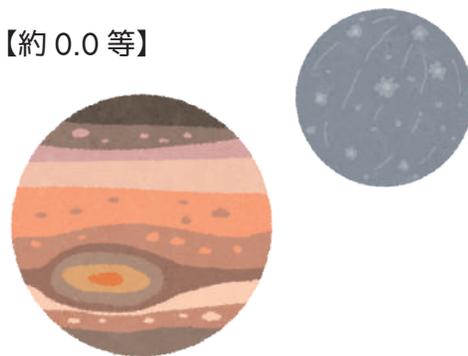
金星：日の出前、東のごく低空に見える。【約-3.9等】

火星：日の出前、東のごく低空に見える。【約1.2等】

木星：日没後より、西の空やや高く見え、22時ごろ沈む。【-2.1等】

土星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ25日頃の明るさ。



■ 話題の天体・旬の天体など

★NGC2024・馬頭星雲（オリオン座）

今年の西暦は2024年ということで、NGC2024付近の天体をご紹介します。オリオン座の三ツ星の1番東側にある**アルニタク**という名の星付近には、**NGC2024**や**馬頭星雲**などの天体があります。NGC2024（画像下側の矢印）は星雲の中では散光星雲という種類で、若い星から放たれた強い紫外線によって水素のガスが光って見えています。炎のように見えるその姿から、**燃える星雲**という別名もついています。

一方、馬頭星雲（画像上側の矢印）は暗黒星雲という種類にあたります。暗黒星雲は星が生まれるのに必要な塵やガスが比較的濃く集まっている部分で、目で見える光（可視光）では光っていません。そのため水素ガスの赤い光が遮られ、馬の頭のような形のシルエットが浮かび上がって見えるのです。

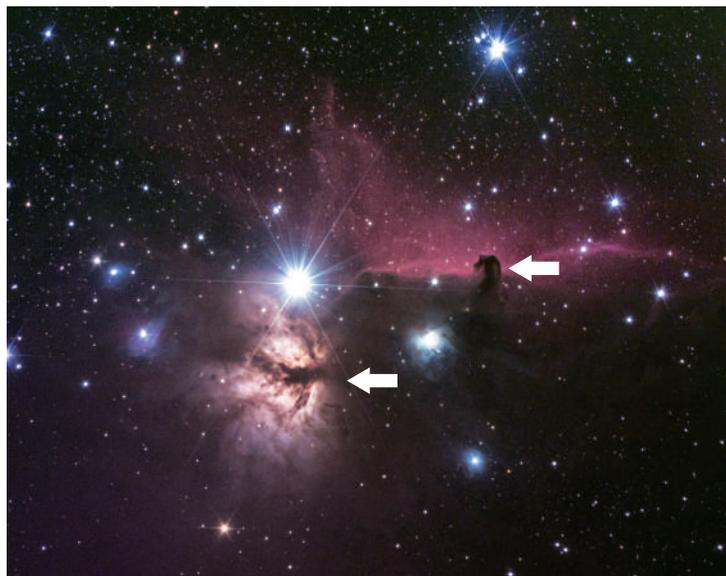
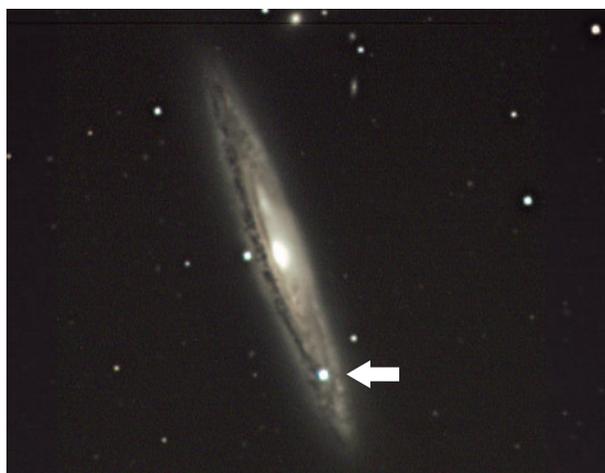


写真1. NGC2024と馬頭星雲（撮影：A.Mihari）



★超新星 SN2024gy（おとめ座）

日本時間2024年1月5日、山形県の**板垣公一さん**によって、おとめ座の銀河**NGC4216**にて超新星**SN2024gy**が発見されました。超新星には大きくI型とII型があり、後の調査によりこの超新星は白色矮星が関係した**Ia型**であると確認されました。

昨年5月、M101に出現した超新星SN2023ixf（こちらも板垣さん発見）に引き続き、今回も113cm望遠鏡にて超新星の姿をとらえることができました。（画像矢印）Latest Super Novaeによると、撮影当日の明るさは約**12.9等**でした。撮影したところが明るさのピークで、その後徐々に暗くなっているとの報告がなされています。

写真2. 1月16日に撮影した超新星2024gy（撮影：A.Mihari）